

助成に関する注意事項

■ 助成対象とならないもの

- ・直接の営利活動を目的とするもの
- ・集会の開催、海外出張、機械の購入のみを目的としたもの
- ・単なる趣味、個人的満足を訴求すると判断されるもの

■ 研究・活動成果の著作権・公表について

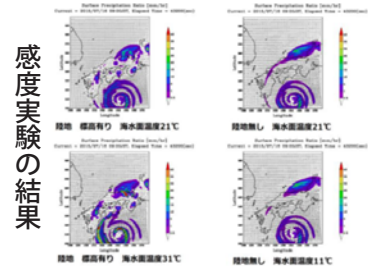
当財団の助成で書かれた論文などの著作権は、応募した「個人」ないし「団体」に帰属します。ただし、当財団の諸活動の中で、応募内容・成果等については広く活用可能な形で公表します。

これまでの助成例

第12回受賞 名越利幸氏

研究タイトル

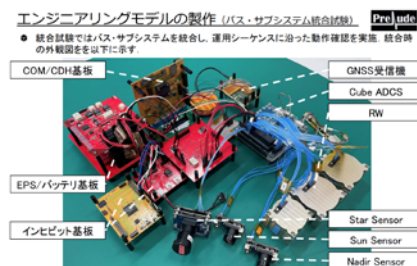
科学教育用気象シミュレーター「クレス」の教育実践と市民への普及・啓発に関する研究



第11回受賞 山崎政彦氏

研究タイトル

地震先行電離圏変動現象検知のためのCubeSatのエンジニアリング・モデル製作：衛星バス・サブシステムの統合



第10回受賞 布施梓氏

研究タイトル

台風観測気球開発を通じた共創型研究による気象サイエンスコミュニケーションの実践的研究



※各助成の研究報告書は当財団のホームページに掲載しています。詳細については下記のURLまたはQRコードよりご覧ください。

一般財団法人 WNI 気象文化創造センターについて

本法人は、気象に関心のある全ての人々及び気象事業を志す起業家に対し、気象に係る実用・実践的研究の奨励及びその研究成果の共有、活用を促進する事業を行うことによって気象文化の向上に寄与することを目的とし、株式会社ウェザーニューズ 創業者石橋博良氏及び同社等の出資により設立された一般財団法人です。

お問い合わせ

一般財団法人 WNI 気象文化創造センター事務局
261-0023 千葉市美浜区中瀬 1-3 幕張テクノガーデン B 棟 19 階

043-274-3191
info@wxbunka.com

<https://www.wxbunka.com/>

@WxBunka



一般財団法人 WNI 気象文化創造センター

気象文化大賞

国内研究助成
および表彰

気象文化を広めるには、草の根で実践されている気象活動に関して、従来の発想にとられない知恵を、個人、企業、団体を問わず幅広く結集し、広げていく必要があります。そこで気象の減災・自助・共助、経済的利用、環境問題などへの対応における実用的な気象研究・活動について、新たなる研究・活動を行おうと計画している、または、これまで革新的な成果をあげた、「個人」および「団体」のこれからの発展を願い「気象文化大賞」として表彰し、研究・活動について助成します。



第14回 気象文化大賞

一般財団法人WNI 気象文化創造センター

気象文化大賞とは

当財団では、気象文化大賞として次の助成事業と表彰事業を行っています。
当パンフレットは「国内研究助成」「気象文化功労賞」「石橋賞」の募集要項です。

国内研究助成

日本国内で気象に関わる
実用・実践研究活動を進
める「個人」「団体」への
助成事業です。

気象文化功労賞

長期にわたり気象の実用・
実践的な研究・活動を、地
道に、堅実に進めてきた「個
人」および「団体」に、さ
らなる努力を願って「気象
文化功労賞」として表彰し、
次年度の研究・活動につい
て助成します。

石橋賞

気象の実用・実践的な研究
に関する「夢」「将来への
希望」「斬新なビジネスア
イデア」「こんな実践がで
ければワンダフル」などの
意見、提言を「石橋賞」と
して公募し、「個人」を表
彰します。

アジア・太平洋地域助成

アジア・太平洋地域におけ
る気象インフラの整備や予
測技術の向上、気象観測お
よび予報技術に関する人材
育成を目的とした助成事業
です。

応募について

- 応募方法 申込書に必要事項を記入・押印の上、添付書類とともに当財団へ送付する。
※提出した書類等は返却できません。
- 応募締切 2024年4月30日(火) 必着
- 応募先
 - 郵送の場合
〒261-0023 千葉県千葉市美浜区 1-3 幕張テクノガーデン B 棟 19 階
一般財団法人 WNI 気象文化創造センター「気象文化大賞」係
 - メールの場合
info@wxbunka.com
- 対象 団体については、原則として設立2年以上を経過しており活動実績のあること。
研究・活動基盤が日本国内にもあり、日本語で応募すること。
- 助成額
 - 国内研究助成 ……100万円を上限とします。
 - 気象文化功労賞 ……助成金額は応募内容を元に選考委員会にて協議の上、決定します。
 - 石橋賞 ……記念品(上限10万円)を贈呈します。※助成金はありません。

国内研究助成のスケジュール



選考について

■ 助成先の決定 選考委員会で選考を行い、助成先並びに助成額を決定する。

国内研究助成に関する選考基準



オリジナリティがあること

テーマの設定、実践プロセス、分析の視点などに他にはない独創性がみられ、今後の展開が期待されること。



実用・実践的であること

これまで十分な実績があり、実施計画では具体的な運用プロセスが検討されていて、その実現性、および研究・活動の成果について期待がもてること。



広く市民生活に役立つこと

助成が研究テーマに関する活動の実現に効果的に作用し、気象の実用・実践的な研究・活動をしている他の「個人」および「団体」への波及効果が期待できること。



広い意味での気象に関わっていること

狭義の「気象」だけではなく、気候変動、地球環境全体と関わるテーマについて研究・活動したものの。



アジア・太平洋への波及効果が期待できること

日本国内での気象の実用・実践についての研究・活動であっても、広くアジア・太平洋への波及効果が期待できること。

複数年に亘って当財団の助成を受けている場合は、各年における成果および継続して応募する意義やゴールについて記載されていること。

類似分野が複数応募されている場合は、他の応募と分割して助成金を交付する可能性がある。

応募者が当財団以外からの助成を受けているか否かを判定基準に含める。

研究・活動成果の公表有無を判定基準に含める。